

第1回 Astra!実行委員会 ディスカッション1

<主な内容:受付からキックオフミーティング部分について>

【グループ1】

(1)実施内容・体験の方向性

- ・150年と限定せず、写真の提示も少し幅広くしてもよい
- ・特定の年代や出来事にこだわりすぎず、柔軟に内容を設計することが重要
- ・世界の変化を踏まえた視点を取り入れる

(2)資料・学びの素材

- ・地域の歴史資料の活用が有効
- 例:商工会議所の歴史(約120年以上)
- ・戦後の地域の変化(例:森林の再生・禿山からの回復)など、
- 子どもが地域を理解する題材として活用できる

(3)体験・交流の工夫

- ・初めから小グループに分けて活動することで、交流が深まる
- ・写真や記録を活用した活動(過去と現在の比較など)も有効

(4)人材・参加体制

- ・若手スタッフの活用も重要
- ・Astraメンバーが運営の中心となる体制

(5)運営上の配慮・課題

- ・参加者の時間制約(午前のみ等)を踏まえたプログラム設計
- ・行事日程(7月実施等)との調整が必要
- ・写真・資料収集については、確保が難しい場合もある

(6)まとめ(方向性)

- ・地域の歴史・文化・産業資源を活かした体験型プログラムが有効
- ・時代背景を柔軟に扱いながら、子どもが「身近に感じられる学び」を設計する
- ・運営においては、人的配置・時間・資料準備を含めた実務面の調整が重要

【グループ2】

- ・とてもよい取組
- ・できるだけ多くの人に参加してもらいたい
- ・国際色豊かな内容に
- ・調理を通じた交流 なかなかできない体験

- ・留学生との事前交流の可能性を探る
- ・食物アレルギーの確認・配慮が必要
- ・調理環境(調理器具・コンロの数)の確認が必要
- ・地域や国の特産物を生かしたい 盛り上げる工夫になる 参加者による具材の持参

【例】おにぎり・味噌汁の具材

- ・各国のカレー作り

【グループ3】

- ・しかく、さんかく、まるのようなパズルを用意しておき、代表の子がことばで伝えてその通りになるか、のよう。コミュニケーションの質を上げるような活動。
- ・自己紹介:各自が名刺を作ってきて交換してはどうか。自分で自己紹介しながら、何人に渡せるか。
- ・料理について、アレルギーの確認はしっかり配慮してほしい。
- ・協力してものを作り上げる。塔を作ったりするような。
- ・外国人の方もいるので、そういった方とぜひ交流したい。アクティビティについても、日本と外国の違いを知れるようなものを行えたらよいと思う。
- ・150 周年でもあるので、アクティビティの中でもそれにかかわったことができるとよい。留学生の方の国の話も共有できるとよい。
- ・共通点探しのビンゴ、留学生の方を紹介するクイズなど。